



アクセシビリティ推進委員会

年報

2025

障がい学生支援の実施状況について



巻頭言

～2025年度FDSD研修会を振り返って

今年度も「障害学生支援がひらく共生のキャンパス」をサブテーマとしてFDSD研修会を開催した。講師は、既存の枠組みを超えた『ユニバーサル・ミュージアム』の実践的研究で知られる国立民族学博物館の広瀬浩二郎氏である。13歳の時に失明し、『初めての全盲学生』として1987年に京都大学へ進学、そこから現在に至るまでに紡いできた研究と実践にもとづく広瀬氏の講演は大いに刺激的であった。時にユーモアも交えながら2時間では全く足りないほどに示唆に富む内容であったが、一貫した問題意識は、様々な事柄の「二項対立」を乗り越える思考と世界観であろう。つまり、二項対立の脱構築である。

二項対立は、例えば、健康と不健康、安心と不安、自律と他律等々、何かを決めたり行ったりするときに二項対立をあてはめ、その良い方を選ぼうとする我々の日常の中に深く根付いている思考の仕方である。それはしばしば、ある価値観を背景にどちらかを優位に、どちらかを劣位に捉える思考となりがちだが、これをいったん留保し、その境界を揺さぶってみるのが脱構築の要諦である。講演では、「障害／健常」「できる／できない」「支援する／される」の二項対立をいかに乗り越えるかを、ご自身の経験とユニバーサル・ミュージアムの実践から話され、そのうち特にポイントと思われたのは、“他者がどういうモードで世界と触れ合っているかを知ること”であった。つまり、「見る」こと以外の五感を使った「みる」を想像してみるということであり、より踏み込んで解釈すれば視覚を使った「見る」に絶対的な優位性はないということである。むしろ、これは広瀬氏だから言えることでもあるのだが、しかし重要なことはここから我々は何を学ぶかである。

おそらく一つは、障害学生支援にしても対人援助にしても、他者と向き合う際にその“他者性＝固有性を尊重する”という倫理を繰り返し確認することではないかと思われる。常に二項対立で劣位とされるのは、障害があり、できないことがあり、支援される他者であるにもかかわらず、この他者性はどう向き合い受け入れられているかは、やはり支援者として常に問われなければならない問題であろう。言うは易く行うは難しかもしれないが、自分(社会／環境)は変わらないままに他者性の尊重はない(＝社会モデル)こともまた事実であり、そしてそれが試されているのが障害学生支援の場であることを今一度確認しておきたいと思う。

もう一つは、サブテーマにもある「共生」の意味をめぐってである。そのままに読めば共に生きることであり現実としても確かにそうなっていることであるが、では誰のおかげで生きているのかという問いについては揺らぎがあるはずである。つまり、障害学生支援はなぜ成り立っているのか、そこに関わる専門職や組織はなぜ存在しているのか、障害者問題にかかわる教員はなぜ存在しているのか、という問いは自明のようでそうでもない。それは支援を必要としている人がいるからなのであるが、大事なことはその人の存在によって専門職なり教員が生きているのであり、さらに言えば養われているという“視点”である。病人は医療従事者を養い、ケアを必要としている人はケアを論じる人やケアを仕事にしている人を養う。「支援する／される」の脱構築とは一つこのようなことであろう。そしてこの点では、誰もが誰かを養いながら共に生きているのであって、すべての人間はこの点で同等である。「共生」の一つの意味はここにあるように思われる。

境界を揺さぶる解釈は他にもあるだろう。いずれにしても、このようなことが学びとしてなぜ重要なのかと言えば、今の障害学生支援の場に社会モデルとは異なった、しかしまた通底している思想としてこの二項対立の脱構築という“視点”が必要と強く思うからである。もっとも実践として具体的に落とし込むことは簡単なことではない。しかし、広瀬氏が別のところで言っていたように「発想の転換がなければ社会も変わらない」ということは肝に銘じておきたい。

このような機会を提供くださった広瀬氏に、あらためて心から感謝申し上げたい。

2026年3月31日

アクセシビリティ推進委員会委員長

松川敏道

目次

- I アクセシビリティ推進委員会の概要……………p1
 - 1. アクセシビリティ推進委員会
 - 2. アクセシビリティ・学生スタッフ
 - 3. 参考資料 障がい学生数
- II 合理的配慮の実施状況……………p2
 - 1. 情報保障（パソコンテイク・UDトーク・字幕修正作業・ノートテイク）
 - 2. ポイントテイク（筆記代行）
 - 3. 通学・移動支援
 - 4. 授業配慮の依頼状況
- III アクセシビリティの向上と学生支援の取り組み ……………p4
 - 1. すきるupプログラム
 - 2. 社会で活躍している卒業生との交流会・卒業生の親との交流会
 - 3. 就職支援
 - 4. 静かな空間・Calm Down Roomの利用状況
 - 5. 学生面談の実施状況
- IV アクセシビリティ・学生スタッフの活動状況……………p6
 - 1. 支援者募集と説明会の実施状況
 - 2. テイク講習会の実施状況
 - 3. オープンキャンパス・式典情報保障
 - 4. 第21回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム
- V アクセシビリティ推進委員の活動状況……………p8
 - 1. 関係機関の委員委嘱
 - (1) 日本学生支援機構（JASSO）
 - (2) 日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）
 - 2. FD/SD研修会 障害学生支援がひらく共生のキャンパス2-“琵琶を持たない琵琶法師”広瀬浩二郎氏に学ぶ-
 - 3. 北海道障害学生支援ネットワーク「第1回情報交換会」
 - 4. 研修会・会議等の参加

I アクセシビリティ推進委員会の概要

1. アクセシビリティ推進委員会

- ・松川敏道（人文学部人間科学科／委員長） ・斉藤美香（心理学部臨床心理学科／副委員長）
- ・藤野友紀（人文学部人間科学科） ・田中敦士（人文学部人間科学科） ・岡田久美子（法学部法律学科）
- ・渡邊 慎哉（経済経営学部経営学科／副学長） ・湯川郁子（経済経営学部経済学科）
- ・ト部洋子（学生相談室カウンセラー） ・辻由依（学生相談室カウンセラー） ・鹿内万敬（教育支援課）
- ・島田尚規（教育支援課） ・尾崎貴司（学生支援課） ・佐藤久美子（学生支援課）
- ・近藤真樹（障がい学生支援コーディネーター） ・藤原祐子（障がい学生支援コーディネーター）

2. アクセシビリティ・学生スタッフ

(人)

学科	経営	経済	臨床 心理	新札幌 計	こども 発達	人間 科学	英語英 米文学	法律	江別 計	合計
1年生	0	0	1	1	0	9	1	0	10	11
2年生	4	1	13	18	0	5	0	0	5	23
3年生	2	0	3	5	0	8	2	1	11	16
4年生	0	0	7	7	0	10	0	0	10	17
計	6	1	24	31	0	32	3	1	36	67

※2026年3月31日現在

◆前年度までは、「2-2.アクセシビリティ・学生スタッフ支援別延べ人数」を掲載していましたが、今年度より支援別の募集としていないため、「2」の報告のみとします。

3. 参考資料 障がい学生数

(人)

	聴覚	視覚	肢体不自由	病弱	発達障害	精神障害	重複	その他	合計
根拠書類のある学生	6	0	3	13	7	36	6	9	80
根拠書類のない学生	1	0	0	0	0	0	0	0	1
計	7	0	3	13	7	36	6	9	81

※数値は根拠書類の有無にかかわらず授業配慮の依頼など何らかの支援を行っている学生数。2026年3月31日現在。

※2026年3月31日現在

Ⅱ 合理的配慮の実施状況

1. 情報保障（パソコンテイク・UDトーク・字幕修正作業・ノートテイク）

通常の授業における情報保障

前 期	1年生	2年生	3年生	4年生	計	
情報保障を利用した学生数（人）	0	0	1	0	1	
情報保障を行った科目数※ ¹	0	0	6	0	6	
※2	パソコンテイク	0	0	0	0	0
	UDトーク	0	0	5	0	5
	字幕修正作業	0	0	1	0	1
	ノートテイク	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0

※2025年9月30日現在

後 期	1年生	2年生	3年生	4年生	計	
情報保障を利用した学生数（人）	0	0	1	0	1	
情報保障を行った科目数※ ¹	0	0	5	0	5	
※2	パソコンテイク	0	0	0	0	0
	UDトーク	0	0	5	0	5
	字幕修正作業	0	0	1	0	1
	ノートテイク	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0

※2026年3月31日現在

※1. 1科目の時間は90分、授業数は半期で15回

※2. パソコンテイク：パソコンを用いた文字通訳、T-TAC Caption接続による文字通訳

UDトーク：音声認識による文字通訳

字幕修正作業：音声付動画への字幕作成・修正、YouTube等を使用して文字通訳

ノートテイク：手書きによる文字通訳

※3. 情報保障の支援では、テイクの場合1時間1,640円の謝金が学生スタッフに支払われます。字幕修正作業は1時間1,095円とし、「動画時間数」×4倍で時間計算し、学生スタッフに謝金が支払われます。

※4. 今年度は、手話通訳やロジャーを使用しての情報保障は行いませんでした。



2. ポイントテイク（筆記代行）

	1年生	2年生	3年生	4年生	計
ポイントテイクを利用した学生数（人）	0	0	0	0	0
ポイントテイクを行った科目数 ^{※1} 【前期】	0	0	0	0	0
ポイントテイクを行った科目数 ^{※1} 【後期】	0	0	0	0	0

※1. 1科目の時間は90分、授業数は半期で15回

※2026年3月31日現在

※ポイントテイクでは、1時間1,095円の謝金が学生スタッフに支払われま



3. 通学・移動支援

	1年生	2年生	3年生	4年生	計
通学介助を利用した学生数（人）	0	0	0	0	0
週あたりの登下校回数【前期】	0	0	0	0	0
週あたりの登下校回数【後期】	0	0	0	0	0

※2026年3月31日現在

※通学・移動支援では、1時間1,095円の謝金が学生スタッフに支払われます。



4. 授業配慮の依頼状況

[前期60名] 肢体不自由学生3名、発達障がい・精神障がい学生33名、その他24名

[後期57名] 肢体不自由学生2名、発達障がい・精神障がい学生32名、その他23名

Ⅲ アクセシビリティの向上と学生支援の取り組み



1. すきるupプログラム

すきるupプログラム（通称：すきっぷ）は、札幌市自閉症・発達障がい支援センターおがるの「Tossプログラム（Transition Ogaru from School life to Social life Program）」をベースとしており、「目標設定スキル」、「ヘルプを出すスキル（コミュニケーション）」、「感情コントロールスキル」、「スケジュール管理スキル」といった、4つのスキルに焦点を当てたプログラムである。

2025年度は前期および後期にプログラムを開催した。プログラムは、1クール9回、1回あたり90分であった。内容構成は「前期：①スケジュール管理スキル＋②感情コントロールスキル」、「後期：①スケジュール管理スキル＋②ヘルプを出すスキル（コミュニケーション）」であり、「目標設定スキル」は前期と後期両方のクールに取り入れた。

今年度は昨年度の振り返りを踏まえ、修学において重要なスキルである課題管理を早期に行えるよう、プログラムを講義開始の早い段階からスタートした。その結果、課題の取りこぼしや、課題が溜まることによるモチベーション低下の防止に寄与できたと考えられる。また、今年度は、合理的配慮や支援を希望する学生に周知を行い、スキルの習得が有効と思われる学生がプログラムに繋がりがやすくなる工夫を行った。今後も学生が繋がりがやすくなるための工夫を検討していく予定である。

スキルを試す場である現場スキルトレーニングについて、2025年度は学生の状況やニーズを考慮した結果、実施しなかった。来年度は必要に応じて現場スキルトレーニングを取り入れ、学生が修学・就業に必要なスキルを理解・獲得できる支援体制を構築していきたい。

【辻由依】



2. 社会で活躍している卒業生との交流会・卒業生の親との交流会

例年実施している、サポートセンター・キャリア支援課・学生相談室の共催による「社会で活躍している卒業生との交流会」を、2026年2月21日に開催しました。

当日は、在学中から就労移行支援を利用し、卒業後に就職先の内定を得て現在も継続して働いている卒業生と、卒業後に職場やご家族の支援を受けながら就労している卒業生の2名にご参加いただき、仕事の内容、これまでの経過、そして現在の状況について報告していただきました。また、卒業後に向けて福祉的就労を検討している在学生2名も参加しました。卒業生からは、就職活動時の不安や期待、現在の職場での対人関係、仕事を進める上での工夫など、具体的な経験が語られました。在学生は事前に質問を準備し、当日も積極的に質問する姿が見られ、有意義な交流の場となりました。学生からの質問には、「コミュニケーションが苦手だが、うまくいく方法はあるか」「社会人として働く上で、他人から感謝されることについてどう感じているか」などがありました。これに対し卒業生からは、「職場でのコミュニケーションは、業務内容についてよく話し合うことが大切。上司や同僚、後輩に相談しながら対応している」「業務の中で『ありがとう』と言われると嬉しく、仕事が楽しくなる。周囲に感謝を伝えることも大切だが、自分自身をねぎらう気持ちも必要」といった、丁寧で具体的な回答が寄せられました。

参加した学生からは、「先輩からコミュニケーションの取り方を教えてもらえて助かった」「将来への不安が軽減した」「障がい

者枠での就労も視野に入れたい」「選択肢が増えて良かった」などの感想がありました。また卒業生からは、「焦らず自分のペースで進めば良い。就職後に業務や人間関係で行き詰まっても、我慢せず休むことも大切。困ったときは家族を含め誰かに相談してほしい」といった助言もいただきました。

この交流会は、在学生にとって大きな心の支えとなり、将来の選択肢の一つとして福祉的就労をより身近に感じる機会となりました。

昨年に引き続き、在学生のご家族からの要望を受け、「社会で活躍している卒業生の親との交流会」を2025年7月31日に開催しました。卒業生のご家族2名、在学生のご家族5名が参加し、対面形式で実施しました。卒業生の保護者からは、「大学生はまず卒業することが目標です。将来が見えず不安になることもありますが、困ったときは誰かに相談することで解決につながります。札幌学院大学は親切で面倒見の良い大学と言われていますが、それだけでなく“愛のある大学”だと思います。焦らず地道に進めば大丈夫。札幌学院大学を卒業して本当に良かったと思っています」と、在学生のご家族に向けて温かいメッセージが伝えられました。在学生のご家族からは、「まず卒業することが大切だと改めて感じた」「卒業生のご家族から貴重な体験談を聞くことができ、とても参考になった」といった声が寄せられ、有意義な時間となりました。

障がいの有無に関わらず、誰もが能力と適性に合った雇用の場につき、卒業後も自立した生活を送るためには、継続的な支援が必要です。今後もサポートセンター・キャリア支援課・学生相談室が連携し、学生の就労に関する不安の軽減や地域への支援につなげていきたいと考えています。なお、本企画は来年度も開催を予定しています。

【卜部洋子】

3. 就職支援

例年開催している障がいのある学生のためのキャリアガイダンスは、参加希望者なく実施せず

※関係機関との連携等が必要なケースに関しては、別途、コーディネーターが個別に支援を行っている

4. 静かな空間・Calm Down Roomの利用状況

前期利用延べ人数 2名

後期利用延べ人数 3名

5. 学生面談の実施状況

2025年度入学生 入学前面談 2名実施

※在学生については、前期・後期終了後に、支援の内容やニーズを確認することを目的とした、振り返り面談を対面、電話等で実施。

IVアクセシビリティ・学生スタッフの活動状況

1. 支援者募集と説明会の実施状況

- 1) 新学期学年別ガイダンスでのチラシ配布・支援者呼びかけ
新入生のみ実施（障がい学生支援コーディネーターからの説明） 2025年4月2日
- 2) 障がい学生支援者説明会
江別キャンパス 2025年4月24日（説明者：2名、受講者：14名）
新札幌キャンパス 2025年4月24日（説明者：6名、受講者：12名）

2. テイク講習会・練習会の実施状況

パソコンテイク講習会・練習会

- 江別キャンパス 2025年6月2日～2025年7月9日（※6週にわたり開催）
（講師4名、受講者11名）
新札幌キャンパス 2025年6月3日～2025年7月9日（※6週にわたり開催）
（講師3名、受講者4名）

3. オープンキャンパス・式典情報保障

入学式	IPトークによる情報保障	2025年4月1日（参加者4名）
オープンキャンパス	UDトークによる情報保障	2025年7月13日（参加者8名） 2025年9月6日（参加者5名）
学位記授与式	IPトークによる情報保障	2026年3月18日（参加者4名）
FD/SD研修会	captiOnlineによる情報保障	2026年3月23日（参加者4名）





4. 第21回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

2025年9月27日に東京都国立オリンピック記念青少年総合センターで「第21回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム」が開催された。昨年に引き続き、本学からはPEPNet-Japan運営委員である藤野友紀教員と障がい学生支援コーディネーター1名、アクセシビリティ・学生スタッフ3名が参加した。

例年、2日間で行われるシンポジウムだが、今年は事前企画の動画と連動する形で行われ、半日ではあるが大変中身の濃い企画であった。聴覚障害学生支援実践共有セッションでは、様々な大学における聴覚障害学生への支援の実際について触れることができ、企業・団体展示では、情報保障に関する新しい支援ツールに関する情報を得ることができた。UDトークのような音声認識とT-TAC Captionのようなタイピングによる入力、IPトークのような事前原稿利用機能が備わっているcaptiOnlineを実際に見ることができ、ツール選択を見直すきっかけとなった。また、全国の大学の学生たちとグループワークを行う学生交流企画では、聴覚障害のある学生とも交流を行うことができ、参加した学生にとって価値観が変わるような体験となっていた。

2025年10月27日、「第21回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム報告会」を江別キャンパスのエントランスで対面開催した。参加した学生それぞれが印象に残った企画について報告することとし、3週にわたってwebでの打ち合わせを行って準備した。当日は学生が司会も含めて進行し、関係する教職員が参加。昨年のシンポジウムに参加した学生から、同じようなことを感じたとのコメントをいただき、発表した学生とも情報交換する場面が見られた。

報告会の後に3名の学生が声をかけ、captiOnlineを含めたツール検証チームを立ち上げた。何度も集まって操作方法を学んだり、どのような使い方が有効かについて意見を出し合い、FDSD研修会では初めてcaptiOnlineを利用した情報保障を行った。本シンポジウム参加をきっかけに、学生による情報保障ツールの検証・実践が行われるなど、大変有意義な機会となった。

【藤原祐子】



Vアクセシビリティ推進委員の活動状況

1. 関係機関の委員委嘱

(1) 日本学生支援機構（JASSO）障害学生支援委員

松川 敏道（任期：2025年4月1日～2026年3月31日）

(2) 日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）運営委員

藤野 友紀（任期：2025年4月1日～2026年3月31日）

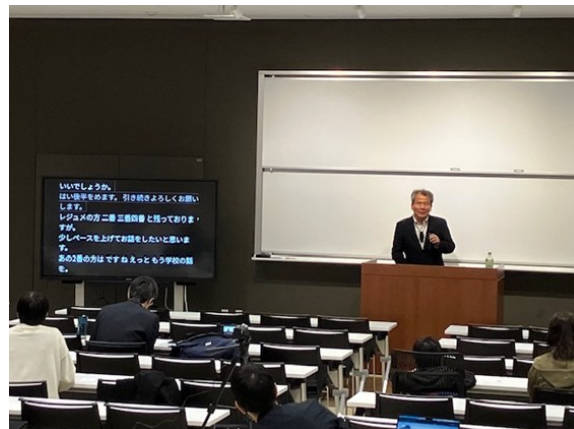
2. FD/SD研修会 障害学生支援がひろく共生のキャンパス2

-“琵琶を持たない琵琶法師”広瀬浩二郎氏に学ぶ-

2026年3月23日に、以下の内容で2025年度アクセシビリティ推進委員会FDSD研修会を開催した。当日の参加者は本学教員（非常勤含む）11名、職員6名、学生9名、他大学・一般市民10名の計36名であった。その他当日参加できずオンデマンド配信を希望した方は14名であった。

講演内容は、冒頭の「巻頭言～2025年度FDSD研修会を振り返って」をご覧いただきたい。なお、研修会のタイトル<広瀬浩二郎氏に学ぶ>について、後日ある先生から参加者の関心をよぶには一考の余地ありとのご指摘をいただいた。確かにわかりにくさもあったと反省しつつ、しかし結果としてはまさに講師である広瀬浩二郎氏に大いに学んだ研修会であった。今回のタイトルはやはりこれで良かったのだと自分を慰めつつ、ご指摘は今後に生かしたい。

- タイトル：障害学生支援がひろく共生のキャンパス2 –“琵琶を持たない琵琶法師”広瀬浩二郎氏に学ぶ–
- 日 時：2026年3月23日(月曜日) 14時00分から16時00分
- 講 師：広瀬 浩二郎氏（国立民族学博物館人類基礎理論研究部教授）
- 対 象：本学全教職員（非常勤講師、非常勤職員含む）、本学学生、
北海道障害学生支援ネットワーク加盟大学、一般の方
- 会 場：札幌学院大学新札幌キャンパス多目的ホール



【松川敏道】

3. 北海道障害学生支援ネットワーク「第1回情報交換会」

2021年度より北海道大学・北翔大学・北星学園大学・本学の4大学5名のコーディネーターで不定期にてコーディネーター座談会を行ってきた。今年度は引き続き、京都大学の村田淳先生にスーパーバイザーとしてご協力いただき、北海道障害学生支援ネットワークを設立した。まずは札幌圏の高等教育機関において障害学生支援に従事している教職員を対象とした情報交換を行う場を作りたいと考え、情報交換会を開催することとなった。

第1回情報交換会は2026年2月10日、本学の札幌キャンパスにて開催され、札幌圏の17大学から34名の教職員が参加した。情報交換会の前半は村田淳先生より、障がいのある学生に対する合理的配慮についてご講演いただいた。合理的配慮に関する基本的な考え方を分かりやすく解説いただくとともに、参加者からの事前アンケートの質問に対し、ポイントを整理しながら丁寧にお応えいただいた。後半のグループディスカッションでは、参加者それぞれが日ごろ抱えている課題や疑問を共有し、活発な情報交換が行われた。参加者の事後アンケートでは、講演会、グループディスカッションともに勉強になった、有意義な時間だったとの感想や情報交換会の定期的な開催を望む声が多く寄せられた。

【近藤真樹】

4. 研修会・会議等の参加

<松川 敏道（教員）>

- 2025年6月9日 日本学生支援機構 第1回障害学生支援委員会
- 2026年2月27日 天使大学FDSD研修会（講師）
- 2026年3月10日 日本学生支援機構 第2回度障害学生支援委員会

<藤野 友紀（教員）>

- 2025年7月29日 PEPNet-Japan第54回運営委員会
- 2025年9月27日 第21回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム（実践共有セッション審査員）
- 2025年12月15日 PEPNet-Japan第55回運営委員会
- 2026年2月16日 PEPNet-Japan第56回運営委員会
- 2025年3月16日 PEPNet-Japan第8回総会

<菅原 秀二（教員）>

- 2026年1月22日 令和7年度障害学生支援大学長連絡会議

<近藤 真樹（障がい学生支援コーディネーター）>

- 2025年9月4～5日 AHEAD JAPAN 2025年度全国大会

<藤原 祐子（障がい学生支援コーディネーター）>

- 2025年9月4～5日 AHEAD JAPAN 2025年度全国大会
- 2025年9月27日 第21回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム
- 2025年11月6～7日 令和7年度 障害学生支援実務者育成研修会 応用プログラム



札幌学院大学アクセシビリティ推進委員会

発行日：2026年3月31日

江別キャンパス：〒069-8555 江別市文京台11番地

新札幌キャンパス：〒004-8666 札幌市厚別区厚別中央1条5丁目1-1

電話番号：011-375-8567（江別キャンパス）

011-802-8635（新札幌キャンパス）

メールアドレス：shien@ims.sgu.ac.jp

（担当事務局：学生支援課学生支援係）